

# INAKEN PRESS

## 稲津けんご通信

編集・発行: 稲津けんご後援会 編集責任者: 稲津 憲護

〒183-0041 東京都府中市北山町2-26-15

☎(042)806-9777 Mail: inazu.kengo@gmail.com



～曲げない 負けない あきらめない～

## 誰も見捨てない地域社会に 2015年9月号

### 府中市郊外も無電柱化へ その目的は?

8月上旬から、稲津けんご氏の自宅がある西原町から本宿町にかけての一部区間で、無電柱化に向けての測量調査が始まっています。

稲津氏は今年4月の府中市議会議員選挙の際に「無電柱化」を公約に掲げていました。今でも稲津氏は無電柱化について「防災面で重要」と力説しています。

「電柱が傾いている」「風が吹くたびに電線が大きく揺れて怖い」「車の通行の妨げになっている」など、電柱に関する市民相談は稲津氏宛にも多数寄せられています。

地震や台風、交通事故などで電柱が倒壊した場合、停電が起きるだけでなく、道路の寸断や火災などの危険が高まります。電柱を無くして電線を地中に埋めることは大変ではありますが、そこから得られる安心感は計り知れないでしょう。

稲津氏は「今後、他のエリアでも無電柱化に向けた動きを進め、府中市全域がスッキリとした街並みになるよう努力したい」と話しています。



### タウンミーティング 盛況に開催!!

4月の府中市議選に再選後、初となる「タウンミーティング」が、稲津氏の地元・西原町で開催されました。当日は雨天かつ、市内外で大きなイベントが多くございましたが、小じんまりとしながらも、参加者の熱気は非常に高いものでした。

今回は「ふちゅうカレッジ出前講座」を利用し、市職員のお二方から「都市計画」についてご説明いただきました。西原町は東八道路建設に向けて動いているとあって、道路や景観などを含めた「まちづくり」を学ぶ良い機会となりました。

講座では、都市計画や地区計画に基いて整備された地域の事例や、身近なエリアがどのような用途で建設されているのかなどを学びました。

タウンミーティングは今後も随時開催する予定です。ご参加いただいた皆様、そして職員のお二方に厚く御礼申し上げます。



人いす コラム 車いすから見た世界 人いす

No.3 「車輪で動く」ということ

車いすの車輪は、スイスイ進む時もあれば、段差や溝などに引っかかることもあります。ぬかるみや上り坂などを進むのは容易ではありません。

車いすの場合、介助者が後ろから押すものと、車いすに乗る方自身が車輪を動かすものがあります。どちらの場合でも、進みにくさは車輪に伝わり、一気に体力が奪われることもあります。

自転車やベビーカーなどでも、同様の経験をされた方は多いことでしょう。

「車輪がある」ということは、「幅や奥行きを取る」ということでもあります。車いすに限らず、自転車やベビーカーなどを使っていると、歩く場合には難なく通れる幅が通れなかったり、角を曲がろうとしても小回りが効かなかったりすることも多く経験します。

車輪が付いた物は、生活する上で便利である一方で、状況によっては不便を感じるものでもあるのでしょうか。物そのものの改良も進んでいますが、それらを使う環境の整備も大切だと感じています。

✎ 平成 26 年度決算 9 月議会で議論へ

8月31日(月)より府中市議会の第3回定例会が開催されます。今回は前年(平成26年)度の決算も加わり、9月29日(火)まで議論されます。

稲津氏は「今年4月の選挙で再選したため、前年度の市政に直接関わっていませんが、その間の市政がいかに機能していたか、また、本年度以降の市政にどのように反映させるべきかを考える意味でも前年度決算に注目したい」と話しています。

そして一般質問では、右記の標題で登壇いたします。決算同様に一般質問にも是非ご注目いただければ何よりです。

【第3回定例会 一般質問】

1. 車椅子でも移動しやすい道の確保を求めて

※ 9月2日(水)登壇予定です。この模様は傍聴またはインターネット視聴可能です。インターネットをご利用の際は利用環境にご注意願います。



稲津けんご

【プロフィール】

1968年北山町生まれ。  
(現在は西原町在住)

1999年から3期12年にわたり府中市議会議員として活動。その後、父の介護や民間での勤務を経て、2015年の選挙で再選。一時ケガで車いす生活を送るが、その経験も活かして「誰にでも優しい府中のまちづくり」に取り組んでいる。



スタッフのつぶやき

8月下旬ごろから涼しい日が続いています。酷暑となった今年の夏。台風や長雨などが気になりますが、これから秋が本格化していくことでしょう。

さて、今年9月は20日(日)から23日(水)にかけて、大型連休となるようです。個人的には夏の疲れを解消する機会にしたいものです。(Y. K.)